

事業報告書

当財団は、大阪の国際競争力の強化を図り、大阪の国際化に寄与するため、「外国人の受入促進・活動環境の整備」、「国際交流情報の収集及び発信」、「グローバル人材の育成」に取り組んでおります。

令和2年度は、「OFIX中期経営計画」3年目であり、重点項目として掲げた「外国人相談機能の強化」、「災害時の多言語支援強化」を中心に、それらを支える各種の事業に取り組むとともに、中期経営計画の中間見直しを行いました。

在阪外国人の安全・安心を確保する事業に取り組むとともに、府内市町村・関係機関等との連携を深め、多文化共生の拠点機関を目指す「ワンストップ総合相談窓口」の運営をはじめ、府内市町村等との共催による「外国人相談の強化」に力を注ぐと同時に、府から受託し令和2年2月に開発した「Osaka Safe Travels」の運用に努めました。また、地域における情報の多言語化など、多文化共生機能の充実を図るため、ボランティアの育成・活動推進に取り組みました。

財政状況については、長引く低金利の影響を受け、財産運用収入が厳しい状況にありますが、資金運用においては安全性に配慮しながら財源確保に努めました。事業収支については、管理費の縮減、事業の効率化など健全経営への取組みを進めました。

I. 事業の実施

令和2年度事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1 外国人の受入促進・活動環境の整備

- (1) 外国人相談機能の強化
- (2) 災害時の外国人支援の強化
- (3) OFIX ボランティアの強化
- (4) 留学生の活動促進事業

2 国際交流情報の収集及び発信

- (1) OFIX からの情報発信
- (2) 民間国際交流団体等の活動促進

3 グローバル人材の育成

- (1) 国際理解教育の促進

(2) 海外研修生受入事業

II. 財務の強化・体制

1. 事業の効率的な実施

資産の運用については、資産運用基準に則り基本財産を棄損することがないように安全性に配慮しつつ効率的な運用に努めるとともに、補助金、委託金等の外部資金の獲得に加え、管理コストの縮減に努めることなどにより、効果的・効率的な事業運営に努めた。

2. 賛助会費の確保

財団事業への参画と協力を得るため、賛助会員の募集を行い、会費の確保を図った。

[令和2年度実績]

財団賛助会員			安藤事業賛助会員		
法人会員(1口 5万円)	19社	47口	法人会員(1口 10万円)	19社	26口
個人会員(1口 3千円)	20名	21口			
個人会員(1口 1万円)	2名	2口			

Ⅲ. 事業報告

1. 外国人の受入促進・活動環境の整備

(1) 外国人相談機能の強化

① 外国人ワンストップ総合相談窓口の運営

府内外国人が生活・就労等に関する適切な情報に速やかに到達できるよう、国及び大阪府の補助金を受けて、情報提供・相談を行う一元的相談窓口「大阪府外国人情報コーナー」を運営した。

なお、令和2年2月以降は、新型コロナウイルス感染症に関し、健康・医療や労働・仕事、在留資格など様々な相談に数多く対応した。

対応言語 (11言語)	日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、フィリピン語、インドネシア語、ネパール語
対応時間	(月・金曜日) 9時00分から20時00分まで (火・水・木曜日) 9時00分から17時30分まで (第2・第4日曜日) 13時00分から17時00分まで ※弁護士又は行政書士による専門相談を11回実施。大阪出入国在留管理局との共催による専門相談を9回実施。
相談件数	2,368件

② 府内市町村等の外国人相談の強化

(ア) 大阪府外国人向け行政情報提供窓口相談員ネットワーク会議

大阪府内の市町村など外国人の抱える問題を解決する機関との連携を深めるとともに、相談員や窓口担当職員同士が連携することを目的としてネットワーク会議を開催した。

<第1回>

実施日：令和2年11月16日(月)

場所：マイドームおおさか

内容：講義「コロナ禍における外国人の在留資格などについて」

(講師) 大阪出入国在留管理局 統括審査官 井俣 雅人 氏

山地 和彦 氏

ワークショップ

出席者数：20名

<第2回>

実施日：令和3年2月19日（金）
場 所：マイドームおおさか
内 容：講 義「コロナ禍の外国人相談の現状を読み解く
ーこれからの外国人相談についてー」
（講師） NPO 法人 国際活動市民中心（CINGA）
コーディネーター 新居 みどり氏
情報交換会
出席者数：24名

(イ) 相談員・通訳者研修

大阪府内の市町村等で外国人相談に携わる相談員・通訳者を対象に、よりよい相談サービスを提供するため、最新事情や各種制度等に関する知識の拡充・共有を目的とした研修を実施した。

<第1回>

実施日：令和2年7月31日（金）
場 所：マイドームおおさか
内 容：講 義「外国人の医療相談」（講師）大阪大学特任研究員 小笠原 理恵 氏
ワークショップ
出席者数：28名

<第2回>

実施日：令和3年1月12日（火）
場 所：マイドームおおさか
講 義：「在日外国人の母子保健」（講師）多文化共生センターきょうと 高嶋 愛理 氏
出席者数：8名

(ウ) 外国人住民向け地域合同一日相談会

府内市町村における外国人相談窓口の設置を支援するため、大阪府内の自治体や国際交流協会が、府内の他の市町村や大学などと連携して実施する相談会を共催し、行政書士や弁護士などの専門相談員やボランティア通訳者等を派遣した。

a) 「弁護士による外国人向け相談会」

日 時：令和3年1月24日（日） 13：00～16：00
場 所：箕面市立多文化交流センター
共 催：国際交流協会ネットワークおおさか
相談内容：法律
対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、
フィリピン語、インドネシア語、ネパール語
相談者数：11名
相談件数：11件

b) 「河内長野市共催オンライン相談会」

日 時：令和3年1月28日（木） 16：00～17：30

場 所：大阪府国際交流財団・河内長野市役所

共 催：河内長野市

相談者数：3名

相談件数：1件

c) 「入管相談会」

日 時：令和3年2月24日（水） 13：30～17：00

場 所：大阪府国際交流財団

共 催：堺市

相談者数：3名

相談件数：3件

(エ) 出張相談会

テーマを絞って外国人住民の方への情報提供・相談を行うため、大阪府内の自治体や国際交流協会、その他の団体と相談会を共催で実施。行政書士、専門相談員やボランティア通訳者等を派遣した。

a) 「外国人のための相談サービス」

日 時：令和2年6月27日（土） 13：00～16：00

場 所：泉佐野市社会福祉協議会サテライト会議室（シャッピーハウス）

協 力：泉佐野地球交流協会・泉佐野社会福祉協議会・泉佐野市役所・
泉佐野電力・大西地区会

相談内容：新型コロナウイルスの影響、在留資格、労働、福祉、生活全般

対応言語：英語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、インドネシア語

相談者数：8名

相談件数：10件

b) 「留学生支援 講演・無料相談会」

日 時：令和2年9月5日（土） 13：00～17：00

場 所：マイドームおおさか8階 第3会議室

相談内容：キャリアデザイン、在留資格、生活全般

対応言語：英語、中国語、ベトナム語

相談者数：8名

相談件数：12件

c) 「外国人のための教育相談会」

日 時：令和3年3月13日（土） 13：30～17：00

場 所：マイドームおおさか 8階 第3会議室

相談内容：子どもの学校生活、進路、進学など教育全般

対応言語：英語、中国語、ベトナム語、ネパール語

相談者数：8名

相談件数：8件

③ 一日インフォメーションサービス事業

大阪法務局、大阪出入国在留管理局等で構成する実行委員会に参画し、外国人を対象とした「一日インフォメーションサービス」を2回開催した。OFIXは、「生活関連ブース」での相談を担当するとともに、通訳協力を行った。

主催：「一日インフォメーションサービス」実行委員会

(「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議)

(構成：大阪法務局、大阪出入国在留管理局、大阪労働局、日本年金機構大手前年金事務所、全国健康保険協会大阪支部、大阪府、大阪府警察本部、大阪市、大阪弁護士会、大阪府行政書士会、大阪府医師会、大阪府歯科医師会、大阪府薬剤師会、大阪商工会議所、近畿税理士会、大阪府社会保険労務士会、日本学生支援機構大阪日本語教育センター、大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館、関西国際交流団体協議会、大阪府国際交流財団、大阪国際交流センター ※事務局は大阪国際交流センター)

対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語

<第1回>

日時：令和2年7月12日(日) 11:00~17:00

場所：大阪国際交流センター

相談者数：41名

相談件数：47件

<第2回>

日時：令和3年1月31日(日) 13:00~16:30

場所：大阪国際交流センター

相談者数：34名

相談件数：46件

④ 外国人相談等にかかる通訳・翻訳ボランティアの活動促進

・コミュニティ通訳ボランティア研修

OFIXボランティアを対象として、ボランティア活動やコミュニティ通訳に必要な知識を学び、実践ロールプレイを実施した。

実施日：令和3年3月15日(月)

場所：マイドームおおさか

参加者：29名

⑤ やさしい日本語事業

「やさしい日本語」を災害時だけでなく平時にも応用することで、より多くの外国人の方にとって分かりやすい情報提供を行うことをめざし、大阪府や府内の市町村、国際化協会等を対象としたネットワーク会議及び研修を実施した。

○やさしい日本語ネットワーク会議

実施日：令和3年2月16日（火）

場 所：マイドームおおさか

内 容：大阪市生野区の取り組み紹介

（「やさしい日本語+わかりやすい編集」をやってみよう！）

講 師：大阪市生野区役所 企画総務課 担当係長 上林 政俊

参加者：50人

○やさしい日本語研修

<やさしい日本語（防災）>

講 師：NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井 佳彦

実施日：令和2年9月29日（火）

場 所：マイドームおおさか

参加者：54人

<やさしい日本語（日常のコミュニケーション）>

講 師：NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井 佳彦

実施日：令和2年12月22日（木）

場 所：マイドームおおさか

参加者：50人

⑥ 生活必携動画の作成

外国人のための生活ガイド「大阪生活必携」の中で、外国人には文字では伝わりにくい場面を平易で理解しやすい動画にし、より多くの外国人に情報を配信した。

YOUTUBE 動画配信の一例：「日本生活ガイド」

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=1q8Vw80fZnY&list=PLfUVqzndjI18QiiJVQi71BxFccYfq9qWg>

⑦ 市町村調査

自治体国際化協会大阪府支部の委託により、府内市町村における多文化共生施策に係る実態及びニーズの把握・分析を行うヒアリング調査を実施した。

調査の時期：令和2年9月～令和3年2月まで

調査の対象：府内15市町村（八尾市、和泉市、枚方市、守口市、熊取町、島本町、豊中市、吹田市、松原市、河内長野市、堺市、能勢町、泉南市、四條畷市、忠岡町）※実施順

調査事項：府内市町村における多文化共生施策に係る実態、課題等
（外国人相談、災害時の外国人対応等）

(2) 災害時の外国人支援の強化

① 大阪府災害多言語情報ウェブサイト・アプリの開発・運営（大阪府委託事業）

災害時に外国人が必要な災害や交通等の情報を多言語（12言語）で一元的に発信するウェブサイト・アプリ「Osaka Safe Travels」を開発し、令和2年2月12日から運用を開始した。

② 府内国際化協会等による「災害時ネットワーク」の連携促進

(ア) 市町村国際交流協会との連携等

a) 市町村災害事業支援

防災力の鍵となる地域連携及び地域に根差した災害時外国人支援を推進し、さらなる地域力・防災力の向上をめざして、市町村や地域国際交流協会とともに共催事業を実施した。

テーマ：「多文化共生社会における防災・災害時研修2020」

実施日：令和2年11月13日（金）

場 所：吹田市立民公益活動センター（ラコルタ）

主 催：吹田市、吹田市国際交流協会、吹田市立民公益活動センター、大阪府国際交流財団

参加者：22名

b) 大阪府域における災害時の外国人支援体制づくり

大阪府域の市町村・国際交流協会間の連携やネットワークの強化を目的に、「大阪府災害時外国人支援ネットワーク会議」を開催し、研修や情報交換を行った。

<第1回>

実施日：令和2年10月20日（火）

場 所：マイドームおおさか

テーマ：「コロナ禍の外国人支援活動」

内 容：とよなか国際交流協会、富田林市、多文化共生マネージャー全国協議会による事例発表

参加者：29名

<第2回>

実施日：令和2年2月5日（金）

場 所：マイドームおおさか

テーマ：「コロナ禍の外国人相談」

内 容：大阪国際交流センター、すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク、滋賀県国際協会による事例発表

参加者：20名

(イ) 大阪府災害時多言語支援センター設置運営・訓練

例年1月に実施しているが、令和3年1月は、大阪府に対する「緊急事態宣言」の発出に伴い、コロナ対応業務に集中するため開催を見合わせた。

(ウ) 災害時通訳・翻訳ボランティアを対象にした研修

大阪府内に在住されている外国人が安心して暮らせるように多言語支援の一環として、外国語通訳・翻訳ボランティアの人材育成を実施した。今回は新型コロナウイルスの対策として研修をオンラインで講義およびワークショップを実施した。

実施日：令和3年3月25日（木）午前・午後（2部制/同一内容）

場 所：オンライン（ZOOM）

内 容：災害時通訳・翻訳ボランティア制度と活動について

やさしい日本語とは？

ワークショップ：災害時情報の模擬翻訳体験（やさしい日本語・多言語）

参加者：午前10名、午後10名 計20名

(エ) 大学、大阪府との三者協定の締結による連携強化

当財団と国立大学法人大阪大学、大阪府の間で、災害時通訳・翻訳ボランティアの確保等に係る連携に関する協定書を締結した。（令和3年1月18日）

(3) OFIXボランティアの強化

① OFIXボランティア登録・派遣制度の運営

OFIXボランティア登録制度を運営し、OFIX事業のほか、公共団体等からの依頼に応じてボランティアを派遣した。

<登録ボランティア数（令和3年3月末現在）及び活動実績>

ホストファミリー	41 家庭	新規受入	0 家庭
語学ボランティア	286 名	派遣人数	142 名(延べ)
文化ボランティア	23 名	派遣人数	0 名

② 災害時通訳・翻訳ボランティア制度の充実

大学等と連携し、教員や留学生のボランティア登録を促進するとともに、市町村におけるボランティア制度の充実を促した。

登録ボランティア数：297名（新規登録者 44名/令和3年3月末現在）

(4) 留学生の活動促進事業

大阪府堺留学生会館オリオン寮の運営及び活用事業

海外から大阪への留学の促進を図るため、大阪府堺留学生会館オリオン寮（85室）を運営した。（平均入居率 80.9%）

また、入居留学生等を対象とした寮生間交流会を実施した。

※例年実施していた地域住民との交流会は新型コロナウイルス感染症対策の一環として、実施を見合わせた。

・寮生間交流会

実施日：令和2年8月15日（土）、12月19日（土）

場 所：大阪府堺留学生会館オリオン寮

参加者：オリオン寮生 計26名

2. 国際交流情報の収集及び発信

(1) OFIXからの情報発信

① OFIXホームページ・SNSの運営等

(ア) OFIXホームページ

災害多言語情報ウェブサイトとの連動を図りつつ、ホームページのリニューアルを行い、財団事業や他団体との共催事業・連携情報をホームページで発信した。

年間アクセス件数：セッション数 72,108 件、ページビュー数 141,614 件

(イ) OFIXフェイスブック

OFIXフェイスブックにおいて、財団事業や他団体との共催事業・連携に関する最新の情報を多言語で配信した。

年間掲載件数：67 件

(ウ) 大阪府災害多言語情報ウェブサイト・アプリの開発・運営（大阪府委託事業）再掲

災害時に外国人が必要な災害や交通等の情報を多言語（12 言語）で一元的に発信するウェブサイト・アプリ「Osaka Safe Travels」を開発、令和2年2月12日から運営開始した。

(エ) OFIXニュース

OFIXニュース（日本語、英語）を印刷版と配信版（メールマガジン）で定期的に発行した。PRイベント時や賛助会員勧誘時のツールとして積極的に活用した。

発行回数：3回（94・95・96号）

発行部数：印刷版 903 部（1回平均 301 部）

配信数 延べ7,480 件（日本語 1回平均 1,927 件、英語 1回平均 581 件）

② その他の広報ツール

企業や大学等に当財団の事業を広くPRするため、OFIXパンフレットやリーフレットほか、必要な情報を多言語で作成して配布した。報道機関への働きかけや取材依頼への対応を行った。

また、財団事務所内において、多文化共生等の資料を配架する「OFIXプラザ」を運営するなど、情報提供を行った。

(2) 民間国際交流団体等の活動促進

① 近畿地域国際化協会連絡協議会、市町村国際交流協会等との連携促進

近畿地域国際化協会連絡協議会に参画し、近畿の府県・政令市の地域国際化協会との連携を図った。
また、災害時に相互にコーディネーター及び通訳の派遣や翻訳支援を行うため、同協議会において「災害時における外国人支援ネットワークに関する協定書」を締結しており、同協議会と共催で研修会「災害時多言語支援センター 基礎研修」や遠隔による災害時多言語支援センター運営訓練などに取り組んだ。

② 関西国際交流ボランティアネットワーク会議（K I V ・ N E T）への参画

関西における国際交流ボランティア活動の発展・振興に寄与することを目的に設立（平成8年3月）されたK I V ・ N E Tに参画。

会員数：63 団体（令和2年度事務局：大阪府国際交流財団）

3. グローバル人材の育成

(1) 国際理解教育の促進

OFIX国際理解教育外国人サポーターの育成・派遣

（大遊協国際交流・援助・研究協会との共催事業）

府内学校の児童・生徒の外国への関心と様々な国についての理解の促進を目的として、OFIX国際理解教育外国人サポーターとして登録している外国人留学生などを、府内学校等で行う国際理解教育授業の講師として派遣するとともに、サポーター育成のための研修を実施した。コロナ禍での授業環境構築を検討し、オンライン（ZOOM）授業や映像教材の作成・貸出しを開始した。

(ア) O F I X国際理解教育外国人サポーターの派遣実績

26校（延べ35校） 対象児童・生徒数：4,104名

(イ) O F I X国際理解教育外国人サポーターのための初回研修

実施日：令和2年10月3日（土）

場 所：マイドームおおさか

参加者：15名

(ウ) O F I X国際理解教育外国人サポーター育成のための研修

実施日：令和3年2月6日（金）

場 所：マイドームおおさか

内 容：多文化共生を考慮した授業の作り方、
コロナ禍でのアクティビティについて考える

参加者：6名

(2) 海外研修生受入事業

大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業の終了

大阪府出身の建築家・安藤忠雄氏をはじめ、当事業の趣旨に賛同された方々からの寄附金を活用し、これまでに19か国・地域から241名の建築・芸術を専門とするアジア諸国の若者を大阪に招聘した。

招聘した若者には、日本の建築や芸術等を実地で学ぶ機会を提供するとともに、日本の大学生と交流する機会を提供することで、国際理解の促進を図り、他では体験することが出来ない唯一無二のプログラムとして、高い評価を得ることができた。

このアジア地域の発展と交流促進に寄与し、次世代に活躍する若者の育成を果たしてきた安藤プログラムも、アジア地域の目覚ましい発展とますます加速する世界のグローバル化を背景に、2020年度（令和2年度）をもって終了することとした。

そのため、過去の受入企業及び研修生の一部に思い出を綴ったエッセイを集め、記念誌を発行した。

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年6月

公益財団法人 大阪府国際交流財団